

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 1456 号

予防型家庭訪問が高齢者のソーシャル・キャピタル効果に与える影響 —北海道・寒冷地域における無作為化比較対照研究—

(The effect of social capital on elderly residents by preventive home visits: A randomized controlled trial in cold areas in Hokkaido)

岡本 裕樹 (おかもと ひろき)

博士 (医学)

#### 論文審査結果の要旨

本論文は、寒冷地域の 65 歳以上在宅高齢者に対して、家庭訪問を行った介入群と行わなかった対照群を用いて、無作為化比較対照研究により、家庭訪問がソーシャル・キャピタル効果に与える影響を分析したものである。

公衆衛生分野では、1996 年に Wilkinson が、ソーシャル・キャピタルの概念を紹介して以来、その健康に及ぼす影響についての研究が多数行なわれてきた。しかし、これまで無作為化比較対照研究によるエビデンス例、ならびに、介入によるソーシャル・キャピタルの変化量を検討したケースは少なかった。本論文は、この点に果敢に取り組んだ。

また、解析手法として、「在宅高齢者生活機能向上ツール **Functioning Improvement Tool for the Elderly Dwelling at Home** (以下 FIT)」を用いた。FIT は、訪問者と話し合いながら日々の生活を振り返ることで、楽しいことや大切だと思うことなどに気づき、高齢者自身が生活目標を再設定し、また、生活を活性化し、廃用症候群などの予防を目的とする。同ツールを用いてソーシャル・キャピタル効果の検討を行なった初めての論文として、かつその効果の妥当性を検証しようと試みた研究として意義があった。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。